

【事業名】 地域交流振興事業

サブタイトル：(仮称) アイディア創出広場推進事業

1. 現 状 ⇒ 地域課題

合併後3年が経過し、徐々に今までの行政主導による地域づくりから、地域住民の手による、まちづくりが芽生え始めてきた

しかし、まだまだこの動きは鈍い。地域づくりの主役は地域住民であり、役所が考えたシナリオでは地域は変えられない。地域振興・地域づくりは実働部隊となる区民の思い・夢を形に換えて進めることが必要不可欠であり、これをなくして地域自治区として特色ある地域づくりの誕生は望めない。

区内には様々な発想を持ち、地域づくりを考えている人たちが潜在しているが誰もが気軽に集い、夢や思いなどを語りお互いに共感しながら、その夢を膨らませ行動へと導く空間・場が足りない。

2. 事業の目的 ⇒ 地域振興事業への思い

そこで総合センター改修計画の中で、地域住民が気軽に集える ①地域づくりの夢を語る場 ②活動発表の場（ミニステージ） ③地域住民のコミュニティーの場（幼児から高齢者まで） ④地域住民情報共有の場（情報ボード） ⑤自治会組織・各種団体等の活動発進の場 の創出を目指し、気軽に集えるサロンのような空間（ヒナが孵るまで卵を温める場）を誕生させる事を目的に構想を描く。

3. 事業構想 ⇒ 目標達成のための手法

その手法として、地域住民との協働により①どんな空間を作りだすことが、気軽に集える空間となるのか ②その空間をどのように活用していくのかなど、実際にシュミレーションしながら描いていく。このことが、完成後活発な活用につながるばかりでなく、この策定計画に地域住民が携わることにより、誇り・愛着を持ち、守り続ける意識が芽生え、さらには多くの人達に伝え広める事へと結びつくものである。

4. 事業効果 ⇒ 地域振興への結び付き

この空間を創出することで、地域の中に潜在する地域づくりへの思いが語り合われ、さらには幼児から高齢者までもが気軽に集える空間となり、世代を超えた交流が身近に実現でき、幼い子供を持つ母親の情報交換の場としての活用も期待できる。

また、多くの人が集まる場として定着させることで、地域情報を提供・発進する場としての活用、あわせて図書館機能をさらに充実させることで交流スペースの拡大へと結び付き、この空間と図書館との一体的な活用により、地域振興の実働部隊である区民の活動が活発となり（指揮が高まり）、地域づくりへの夢・思いを実現できるステージ（発進の場）が誕生する。

5. 事業計画 ⇒ スケジュール

H21年4月～7月

・委託設計

※ 構想策定内容を伝え設計に反映させる

・地域交流振興事業構想策定メンバー募集

・アイディア創出広場策定の会発足

※ 地域住民との協働を目指しメンバーを募る

・構想策定作業

※ 地域住民との協働により活用の形をシュミレーションしながら、使いやすい空間を創出する

H21年 9月

・地域振興事業提案（地域協議会へ）

※ 改修工事費を算出し、地域交流振興事業として整備する部分について、地域づくり事業として提案する（事業費按分）

・補正予算要求

H21年10月～H22年3月

・改修工事实施

H22年 4月

・アイディア創出広場の活用開始